

目次

桃山学院大学の3つの方針

大学全体	2 P
経済学部	3 P
社会学部 社会学科	5 P
社会学部 ソーシャルデザイン学科	6 P
経営学部 経営学科	7 P
ビジネスデザイン学部 ビジネスデザイン学科	8 P
国際教養学部	10 P
法学部	13 P
人間教育学部	15 P

桃山学院大学大学院の3つの方針

大学院全体	17P
経済学研究科	19 P
社会学研究科	21 P
経営学研究科	24 P
文学研究科	26 P

桃山学院大学

01 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

以下に挙げる能力を身につけていることを重視し、各学部が定める卒業認定・学位授与方針に則り、所定の単位数を修得した者に学士の学位を授与します。

<学力>

- ・社会で活躍するための基礎学力
- ・知識だけでなく知識を活用するための論理的な思考力・判断力・表現力

<創造力>

- ・新しい知識・考え方や価値を自らつくり出す力

<共感力>

- ・多様な人々とコミュニケーションし共感をつくり出す力

<実践力>

- ・責任を持って踏み出し実現する力

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

以下の科目群から構成されるカリキュラムを編成することを基本とし、学びの過程と学びの成果が学生本人のみならず社会からも見えるようにします。

<共通教育科目>

- ・キリスト教精神に基づく世界の市民の理念を理解する。
- ・地域や世界の文化・歴史、言語等についての知識を広く究め、世界の市民としての基礎能力を修得する。
- ・幅広い教養を培い、強靭な知性と身体を養う。

<学科教育科目>

- ・それぞれの学部・学科の主軸となる個別科目の基礎・基本を確実に学び取る。
- ・その知的深みを究める。
- ・学際的かつ全方位的視野を持って他の学問分野の成果にも関連づけて学修する。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

以下に挙げる知識・技能・意欲・態度を備えた人を求めます。そのために、多様な評価方法を用いて複数の選抜機会を設定します。

<知識・技能>

- ・高等学校等での学修で身についた知識および技能

<意欲>

- ・問題解決や創造的活動などを通じて自分を成長させる意欲

<態度>

- ・広い視野を持ち多様な他者を受け入れる素直な態度

経済学部 経済学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経済学部では、学士課程教育を通じて、学生のみなさんが経済学の深い専門知識とともに、生活や地域、グローバル社会や高度情報化社会といった私達が生きている社会基盤の関連分野について幅広い知識を主体的に身につけることを目標としています。同時に、こうした知識をベースにして経済社会の様々な問題に対する自分なりのしっかりとした見識を持ち、実社会の中における各々の局面で問題解決のために指導的役割を果たせる人材を、社会に送り出すことを目指しています。

この目標に沿って、学士（経済学）の学位授与にあたっては、課程の教育によって以下のようないくつかの知識や能力を身につけています。

- 1.理解力：複雑に絡みあった経済・社会事象の仕組みを理解し、問題点を発見できる能力。
- 2.分析力：目的に即したデータや情報を収集し、これらを正確に分析できる知識と能力。
- 3.展開力：客観的な分析を基礎にして経済・社会事象を論理的に考察できる能力。
- 4.発信力：自らが体得した知見を自分の言葉で外部に対して発信できる能力。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経済学部では、上記の教育目標を実現していくために、教育課程の編成と実施について、以下のようないくつかの基本方針を持っています。

(1)基礎・教養学習の重視

新入生全員に対して、大学での学びに必要な基礎力を身につける「入門演習」を履修させるほか、経済を学ぶ第一歩としての「経済基礎」、広く豊かな教養を培うための共通教育科目を、基礎教育科目類、教養教育科目類の二分野にわたって提供しています。

(2)少人数教育の重視

少人数クラスでの教員との直接対話、あるいはクラスメートとの対話や討論は、豊かな人間性を養う機会であり、また学問内容のより深い理解や応用のための機会でもあります。さらに、具体的な履修指導を行い、学習への動機付けを与えるといった点からも、少人数教育は有効です。経済学部ではこうした少人数教育のための場として、1年次生から4年次生まで毎年次に「演習」科目を配置し、演習を中心に学習するシステムをつくりています。

(3)目的意識を持った学習の重視

各学生が自らの関心に沿って目的意識を持ちながら経済についての学習を進められるように、4つのコース（生活経済コース、地域経済コース、グローバル経済コース、現代経済分析コース）を設け、そのうちのひとつを選択して、経済学部での学習の柱とします。

(4)体系的学習と学際的学習の重視

経済学は完成された体系を有する学問であり、経済理論・分析手法・経済制度や経済事情をバランスよく学習していく必要があります。それとともに、経済学は経営学、法学、社会学、情報科学など周辺諸領域とも密接な関係にあります。経済学部のカリキュラムは、このような経済学の体系的な学習と周辺諸領域にもまたがった学際的な学習の双方を重視したものになっています。

(5)学外実践教育の重視

職業意識を涵養するために、国内企業での就業を体験するインターンシップを奨励しています。さらに、海外の協定大学等に留学し、語学力の向上と国際的視野の拡張をめざす海外研修を実施し、学生の参加を奨励しています。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

[教育目標]

経済学部の理念・目的は、「経済、産業および貿易に関する理論と実際について研究、教授し、国際社会に活躍しうる人材の育成につとめる」(学則第3条1項)ことにあります。これのもとで建学の精神をもふまえた経済学部の教育目標は、「激動する現代の経済社会問題を広い視野から見つめ分析することのできる人材の育成」です。

[求める学生像]

経済学部では、この教育目標を理解し、社会の動きに関心を持ってさまざまなことに積極的にチャレンジする意欲のある学生を求めています。そのために、一般入試・推薦入試・総合型選抜など、多様な入試制度を設けて学生を受け入れています。特に、総合型選抜では学部独自の試験を行って、意欲や特技を持つ個性的な学生を積極的に受け入れています。

社会学部 社会学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学士（社会学）の学位授与にあたっては、学科の課程で卒業必要単位 124 単位を修得し以下の能力を身につけていることを重視します。

- 社会学に固有の考え方を、隣接分野との関係において理解し、社会の現象や問題の解明に社会学の理論や方法論を応用できる。
- 社会に流通するさまざまな情報や知識を批判的に検討し、論理的に思考して新たな発想を生み出せる。
- 情報やデータを正確に読み解き、得られた知見を文章その他の表現方法で的確に伝えることができる。
- 知的探究心を備え、多様な社会と文化への深い認識と想像力を持ち、世界の市民としての責任を自覚し遂行できる。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

〔教育の基本方針〕

社会学科では「あなたがデザインする未来、社会学でデザインする未来」をキヤッチフレーズに、次の 4 つの履修モデルでカリキュラムを構成しています。

生活デザインモデル

家族社会学や産業社会学など、人生（ライフ・コース）で経験する多様な生活の場に焦点を合わせ、それらを分析するための社会学的知識や方法を幅広く体系的に習得し、問題解決能力を高めることを目指す。

文化デザインモデル

文化社会学やスポーツ社会学など、多様に表現されている現代の文化現象が持つ意味を解読し、その基盤となっている現実社会の仕組みの解明を目指す。

社会デザインモデル

社会運動論や都市社会学など、地域コミュニティを中心として、環境問題や国際社会の問題にまで視野を広げ、よりよい社会を構想・設計していくことをを目指す。

メディアデザインモデル

マス・コミュニケーション論やデジタル・メディア論など、メディアを介した人間どうしの営みを深く理解し、それと一緒に、発信と受信の両面から、メディアを活用する力の向上を目指す。

〔カリキュラムの柱〕

世界市民、キリスト教学など本学の建学の精神を実現する共通科目を基礎にして、社会学科ではゼミや社会調査、ソーシャルデザイン学科ではゼミやソーシャルワーク演習、実習など少人数での教育を大切にし、幅広く専門の理論を学ぶことをを目指します。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

〔教育理念〕

社会学部社会学科は社会研究(social study)を通して、現代社会を多様な視点から理解し、自主的かつ論理的に考え、総合的に判断し行動する「世界市民」と呼ぶに値する学生を育てることを目標としています。

〔求める学生像〕

社会学科では、鋭い分析力と熱い実行力を備えた人間になってほしいと期待しています。社会学を基礎に幅広い知識を持った、柔軟でバランスのとれた見方と思考のできる学生を求めます。

社会学部 ソーシャルデザイン学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学士（社会福祉）の学位授与にあたっては、学科の課程で卒業必要単位 124 単位を修得し以下の能力を身につけていることを重視します。

- 社会福祉に固有の考え方を、隣接分野との関係において理解し、社会の現象や問題の解明にソーシャルワークの理論や方法論を応用できる。
- 社会に流通するさまざまな情報や知識を批判的に検討し、論理的に思考して、新たな発想を生み出せる。
- 相談支援や社会関係の調整を図るために、人と適切なコミュニケーションをとることができる。
- 知的探究心を備え、多様な社会と文化への深い認識と想像力を持ち、世界の市民としての責任を自覚し遂行できる。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

〔教育の基本方針〕

ソーシャルデザイン学科では、福祉的視点で社会の課題をとらえ、共生社会をデザインできる人材を育成する 3 つのフィールドでカリキュラムを構成します。

「地域・組織」フィールド

地域や福祉に関わる組織に焦点を当てて、生活していく上での様々な問題を低減・解消して福祉を実現するデザインを考えます。そのために地域や組織のよりよいあり方を実現するための価値・知識・技術を養います。社会福祉学に軸足を置いて、社会や経営などの視点についても学びます。

「生活・ケア」フィールド

一人ひとりの可能性を開いて、いきいきとした生き方を当事者とともにつくるデザインを目指します。そのために誰にでも起こり得るさまざまな生活課題（社会面、精神面、身体面、経済面など）に関する知識、価値、支援力を身につけます。個人・家族を支えるための社会福祉を幅広く学びます。

「政策・国際協力」フィールド

日本のみならず世界のすべての人が豊かで健康に暮らせる社会の実現のために、積極的政策や国際的な協力のデザインを目指します。そのためには幅広く社会課題を把握して、解決する能力や意欲を養います。ソーシャルワークを基盤として、政策の立案や国際協力を進める方法を学際的に学びます。

〔カリキュラムの柱〕

世界市民、キリスト教学など本学の建学の精神を実現する共通科目を基礎にして、ゼミやソーシャルワーク演習、実習など少人数での教育を大切にしています。ソーシャルデザイン学科では、社会福祉の専門知識に加えて、人権尊重と社会正義、多様性尊重の視点に基づいた社会課題解決の共生デザインを学ぶことを目指します。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

〔教育理念〕

社会学部ソーシャルデザイン学科は、建学の精神に基づき、変化する社会の中で、福祉マインドをもって社会福祉問題の本質を科学的に認識する力と問題解決のための優れた実践力を持ち多様な形で共生社会をデザインできる人材を養成することを目標としています。

〔求める学生像〕

ソーシャルデザイン学科では、暮らしの中にある社会課題を発見する力、それらを解決する共生社会のデザインへの関心、そして、福祉で学んだことで社会課題を解決しようとする意欲を持つ人を求めます。

経営学部 経営学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経営学部では社会の変化に柔軟に対応するため、経営の理論と実際を学び、また幅広い教養を身につけ、それらを適切に活用できることを重視し、人生 100 年時代をしなやかに生き抜くビジネスパーソンを育成する。

学士(経営学)の学位授与にあたっては、経営学や関連分野の専門的知識の修得および以下の 5 つの能力を身につけていることを重視する。

1. <学力> 観察、共感、分析、実践を通じて、社会の変化を把握する力。
偏見や先入観にとらわれず物事を客観的に理解するための、論理的・批判的思考力。
2. <創造力> グローバル社会で多様な人々と協調して、新しい考え方や価値を創りだす力。自らの考えや学んだことを他者と対話し共有するうえでの、コミュニケーション能力。
3. <共感力> 自らの考え方や学んだことを他者と対話し共有するうえでの、コミュニケーション能力。グローバル社会で多様な人々と協調して、新しい考え方や価値を創りだす力。
4. <実践力> 社会の変化に適切に対応するために、全方位的視野を持って、自律的に学び続けることができる力。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

〔教育の基本方針〕

経営学部ではディプロマ・ポリシーに基づき、「体系的な学び」、「計画的な学び」、「多様な学び」を実現するカリキュラムを編成し自律的学習者の養成を目指す。

(1) スタディエリアによる体系的な学び

「グローバル＆ローカル」「デジタル＆マーケティング」「マネジメント＆アカウンティング」これら 3 つのスタディエリアを、複合的かつ柔軟に構成している。学生が自ら考え選択し一人ひとりの学びの体系をつくるために、幅広い教養から専門的で高度な知識まで学べるスタディエリア科目群が用意されている。

(2) 初年次教育と計画的な学び

初年次教育では、学習への動機づけを高め、思考力やコミュニケーション能力を養成しながら、学生一人ひとりが自分の学びを設計することを重視する。そのため、少人数クラスで教員やエルダーの先輩たちがきめ細やかなサポートをする「大学生活入門セミナー」と「基礎演習」を設けている。

(3) 実践型授業と多様な学び

社会の変化を把握し新しい考え方や価値を創りだす力を身につけるため、経験に基づく学びや様々な人々との学びの機会を重視する。そのため、各スタディエリアでは企業や地方公共団体等と連携した実践型授業などの多様な学びが用意されている。

〔学修成果の評価方法〕

ディプロマ・ポリシーに示された 5 つの力と関連付けられた各科目、および「大学生活入門セミナー」の修得単位の状況により学修達成度を評価する。スタディエリアごとに所定の単位数を評価してスタディエリア認定を行う。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

〔教育理念〕

経営学部では社会の変化に柔軟に対応するため、経営の理論と実際を学び、また幅広い教養を身につけ、それらを適切に活用できることを重視し、人生 100 年時代をしなやかに生き抜くビジネスパーソンを育成する。

〔求める学生像〕

経営学部が求める学生は、上記の教育理念を理解し、経営学部が実施する専門教育・基礎教育・実践教育を通して、自ら考え積極的に行動する力を身につけたいという意欲の高い学生である。

ビジネスデザイン学部 ビジネスデザイン学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学の建学の精神は「キリスト教精神に基づく世界の市民の養成」です。世界の市民とは、他者を思いやる感性と自己を確立したうえで、世界のどこででも誰とでも協働できる人材を意味します。また、今日の社会では、SDGs の実現や Society5.0 に向けた人材育成が必要とされています。以上のような建学の精神および社会の要請の双方の視点から、ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科では、ビジネスを「社会に対して持続的に価値を創り出す活動」と、従来のビジネスよりも幅広く捉えています。ビジネスをデザインするとは「多様な人々と共に新しいビジネスを構想・企画し実現可能な仕組みをつくる」と捉えます。学内にとどまらない活動を含めた多様な学びによって所定の単位を修得し、さらにビジネスデザイン演習を通じて、ビジネスをデザインする能力を獲得した学生に対し、学士(ビジネスデザイン)の学位を授与します。ビジネスをデザインする能力を獲得する過程を通じて、以下の力を身につけます。

1. 課題解決に必要な幅広い知識・技能、論理的思考力・判断力・表現力
2. 取り組むべき社会の課題を発見し、その解決策を考え出し、実行することで、社会に対して持続的に価値を創造する力
3. 自ら行動し、関係する人々と協働できる高度なコミュニケーション力とリーダーシップ
4. 新たな価値を創造するために、必要な感性や美意識などの教養
5. ビジネスを実現するために、現実において粘り強くやり抜く力

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科は、幅広い知識・技能、思考力・判断力・表現力および高度なコミュニケーション力を備え、多様な人々と共に新たなビジネスを創造することによって社会課題を解決できる人材を育成することを教育目標としています。

そのため、企業・団体、行政・地域と連携しながら、クリエイティブ力、高度なコミュニケーション力、やり抜く力の新たなビジネスを創出する 3 つの力と、その 3 つの力を駆使するための“世界標準のリーダーシップ”を身につけます。

これらの教育目標や身につく力をふまえ、ビジネスデザイン学部では次のような素養を持つ人物の入学を期待し、多様な評価方法を用いて複数の選抜機会を設定します。

〔教育課程編成の考え方〕

ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科では、ビジネスデザインを「多様な人々と共に新しいビジネスを構想・企画し実現可能な仕組みをつくる」ことと捉え、所定の単位を修得したうえで、ビジネスをデザインする能力を獲得した学生に対し、学士(ビジネスデザイン)の学位を授与します。

したがってディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の 3 点をカリキュラム・ポリシーとします。

- (1) ビジネスデザインのプロセスとは「調査・分析」と「企画・実現」を行き来しながら、最終的には実現を目指します。したがって、本学部の教育課程においても、これらを相互に関連付けて学びながら、「企画・実現」を実践する教育を重視します。
- (2) 多様な人々と共にチームをつくり課題解決に取り組む教育を重視します。
- (3) 多様な形で、社会からフィードバックを受ける教育を重視します。

〔教育内容〕

上記の「教育課程編成の考え方」に基づき、以下の 7 つの科目群で開講科目を編成します。

『ビジネスデザイン演習』、『ビジネスデザイン実践』、『ビジネスデザイン思考』、『ビジネス理論・知識』、『ドメイン』、『教養・文化』、『学外プロジェクト』。

このうち、『ビジネスデザイン演習』はビジネスのプロトタイプ作成に取り組む科目群であり、4 年間の学びの集大成となります。4 年次生は全員が「ビジネスデザイン演習Ⅱ」において、自ら作成したビジネスのプロトタイプを、それらと関連

する行政・企業・団体等、関係する社会的主体に対してプレゼンテーションし、評価を受けます。

この評価を反映させ、ディプロマ・ポリシーの達成度を測定します。

〔教育方法〕

上記の「教育課程編成の考え方」を実現するために、以下の 5 つの教育方法を実施します。

- (1) 多様な人々との関わりの中での学びを重視し、かつ社会からのフィードバックを受けるため、企業・行政・団体・地域と連携し教育します。
- (2) 実務家教員と起業家を中心としたゲスト講師によって、実際に社会で役立つ「企画・実現」の実践を専門的に教育します。
- (3) 今日的なビジネスの課題を深く理解する機会として課外プログラムを設け、正課と課外を連携させながら教育します。
- (4) チーム内で自ら目標に向かって取り組む当事者意識とメンバー間で新しい価値を生み出すコミュニケーション力を身につけるためのリーダーシップ教育を実施します。
- (5) ビジネス創造コース、情報テクノロジーコースを設けることで、ビジネスデザインにおいて不可欠なプロセスを体系的に学ぶように教育します。

〔学修成果の評価方法〕

各科目の学修成果の評価は、講義における成果物、レポート、プレゼンテーション、参加状況など各科目のシラバスに記載する多面的な評価方法により単位の認定を行います。4 年間の学修成果は、所定の単位を修得し、「ビジネスデザイン演習」におけるプロトタイプの作成や研究発表等の成果により、ディプロマ・ポリシーに示された能力等の達成状況を評価します。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

ビジネスデザイン学部ビジネスデザイン学科は、幅広い知識・技能、思考力・判断力・表現力および高度なコミュニケーション力を備え、多様な人々と共に新たなビジネスを創造することによって社会課題を解決できる人材を育成することを教育目標としています。

そのために、企業・団体、行政・地域と連携しながら、クリエイティブ力、高度なコミュニケーション力、やり抜く力の新たなビジネスを創出する 3 つの力と、その 3 つの力を駆使するための“世界標準のリーダーシップ”を身につけます。

これらの教育目標や身につく力をふまえ、ビジネスデザイン学部では次のような素養を持つ人物の入学を期待し、多様な評価方法を用いて複数の選抜機会を設定します。

1(知識・技能)

ビジネスデザインの専門的な学びに必要な基礎学力

2(社会に対する関心・意欲)

(1) 今日の社会およびビジネスの課題に対する幅広い関心

(2) 大学の学びを通じて、社会に対して新しい価値を生む人間になりたいという積極的な意欲

3(創造力・思考力・判断力・表現力)

(1) 新しい発想や生み出す意欲と創造力

(2) 基本的な論理思考力

(3) 相手の考えに耳を傾け、理解し、判断する力

(4) 自分の考えを伝える表現力

4(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(1) 多様な人とともに、目標を共有しながら、自ら積極的に取り組み、周りを支援する力

(2) 多様な人とともに、目標達成まで粘り強くやり抜く力

国際教養学部 英語・国際文化学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国際教養学部は、キリスト教精神に基づき「世界の市民」として通時的かつ共時的な視点から人間文化や社会活動を捉え直し、現代の問題に向き合えるような能力と教養を備えた人物を育てることを目標としています。そのためには、卒業に必要な124単位を修得するなかで、以下のような目標を達成した者に学士（国際教養学）の学位を授与します。

1. 英語やその他の言語に関する知識を持ち、様々な国・地域について文化、歴史、社会等から多面的に理解できる。
(知識・理解)
2. 沢山の情報に惑わされることなく、主体的に物事を考えることができる。(思考・判断)
3. 日本を含む世界の文化、社会、現代情勢などに关心を持ち、異文化を受け入れることができる。(関心・意欲、態度)
4. 英語やその他の言語について一定の運用能力を身に付けています。(技能・表現)
5. 現代的諸問題について自らの意見を形成し、発信できる。(技能・表現)

* 上記の目標に加えて、各コースごとに次のような人材の育成を目指している。

1. 英語プロフェッショナルコース

「国際共通語としての英語」の実践的運用能力と、英語という言語に関する専門的知識を身に付け、ことばの仕組みの探究、ひいては人間の本質の理解を通じて、社会に貢献できる。

2. 日本・東アジアコミュニケーションコース

グローバル化が進む日本・東アジアで、各々が文化的・経済的な交流を進めていくために、東アジア諸地域との双方の学びを通じ、「言葉と文化」のコミュニケーション力を身に付けています。具体的には以下の目標を達成する。

- ① 日本および中国・韓国文化圏に対する理解を通じて、既成概念にとらわれない幅広い視野を身につけ、共生社会の実現に貢献する力を身に付けています。
- ② 日本語・日本語教育に関する深い学びを通じて、その知識を活かして共生社会の実現に貢献する力を身に付けています。
- ③ 中国語または韓国語を習得することにより、それぞれの言語を活かして仕事をすることができます。

3. グローバル共生コース

留学やオンライン授業も含めて、さまざまな海外プログラムを通して国際体験を積むことによって、世界の人々とコミュニケーションを図り、異文化理解力を身に付け、現代社会の諸問題を理解できる。

具体的には以下の目標を達成する。

- ① 英語だけでなく、スペイン語・フランス語・イタリア語・ドイツ語などヨーロッパの言語と文化を学び、また非西欧社会の多様な文化にたいする理解も組み合わせて世界各地の文化を複眼的な視点から考察できる。
- ② グローバルなコミュニケーションを生むメディアについて批判的かつ創造的に学び、メディアで表現する力を身に付けています。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

[教育の基本方針]

国際教養学部は、教育目標を達成するために、「①実践的な外国語運用能力の涵養」、「②多文化共生をめざす国際理解の促進」、「③発信型の異文化コミュニケーション能力の育成」、「④現代の諸問題への対応」という4つの教育の柱を掲げています。

① 実践的な外国語運用能力の涵養

海外や国内の様々な仕事の場で、英語やその他の言語(初修外国語)を使って情報を収集・分析し、議論し、交渉できる能力を養う。

② 多文化共生をめざす国際理解の促進

明治以来の近代日本がモデルとしてきた西洋の規範的教養の受容だけでなく、世界中の多様な文化の理解を前提とした、新たな教養教育を目指す。そのために、欧米に偏重することなく、アジアに関する地域研究も積極的に教授するとともに、英語だけでなく多様な外国語の授業(初修外国語)を充実させる。

③ 発信型の異文化コミュニケーション能力

様々な文化的背景をもった人に対して、幅広い教養に基づいて、相互に交流することのできるコミュニケーション能力を伸ばす。

④ 現代の諸問題への対応

グローバル化した現在の世界においては、環境問題や国際平和などのように、あらゆる人間の営為が人類的・地球的規模の問題と直結している。単なる机上の知識ではなく、国際的な教養を現代的問題の解決のために生かし、何をすべきかを論理的かつ実践的に考える力を養う。

上記の4つの柱は、それぞれ相互に結びついて初めて意味を持つものであり、国際社会で幅広く活躍できる「世界の市民」を育成するためには不可欠なものです。とくに国際教養学部は、平和の実現を目標に、言葉と文化の学びを通じて修得したコミュニケーション力により、国内外の課題を解決し、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

☆国際教養学部のコミュニケーション力は以下の3つを指します。

- ・国家・地域・グループ間に対話と交流を生み出す力
- ・異なる価値観や文化をもつ他者を受容し、共生を促進するために必要な課題解決力
- ・潜在的な課題を可視化し、問題意識を互いに共有できる力

[カリキュラム編成の方針]

教育の基本方針に従い、以下のようなカリキュラムを編成しています。

- ・1年次を対象とした導入科目を国際教養学部の基礎教育と位置づけます。その中心は、国際教養学部に入学した学生すべてにとって必要となるレポート作成とプレゼンテーションのためのアカデミック・スキルを習得させる「大学入門セミナーⅠ」と「大学入門セミナーⅡ」です。また、グローバル人材に求められる言語の運用能力を身に付けるために、1年次では「初修外国語」(ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・韓国語から1つ)4単位を基幹言語科目(必修科目)としています。
- ・1年次から世界に目を向けた出口(卒業後の進路)とキャリアにつながる教育プログラムを用意しています。
- ・外国語教育においては「国際共通語としての英語」に加え、6つの初修外国語の教育を充実し、とくに近隣の韓国語と中国語の教育に力を入れています。
- ・英語プロフェッショナルコース、日本・東アジアコミュニケーションコース、グローバル共生コースという3つのコースが設定されています。2年次以降は、それぞれの関心と適性や将来への志望に応じてコースを選び、各自の「学び」を深めていきます。各コースにおける学習・研究の基礎を身に付けるため、演習形式の「コース基礎演習Ⅰ」と「コース基礎演習Ⅱ」が用意されています。さらにコースごとに定められた選択必修科目を履修して、コースごとに求められる学力と能力を習得することになります。
- ・現代への諸問題に対応できるような力を身に付けるため、アクティブラーニングを使った課題解決型の少人数授業を用意しています。
- ・3年次・4年次では「演習」を開講しています。4年間の学部教育の集大成として研究テーマに取り組み、調査とディスカッションを通して自分の考えをまとめ、発信できるようにします。

- ・外国語運用能力やコミュニケーション能力を向上させるため、留学を始めとしてさまざまな海外研修を重視しています。海外における体験が、キャンパス内における学習と有機的かつ効果的に結合するように、履修指導に取り組んでいます。たとえば、学部独自の留学プログラムである「英語セメスター留学」は、コースを問わずすべての学部生が応募でき、2年次春学期から4年次秋学期のうち1学期間、海外の提携校に留学できます。
- ・留学・海外体験プログラムはもちろんのこと、オンラインによる海外の大学や諸機関との交流型授業を設けています。どのような状況下においても、リアルタイムに海外の人たちと、グローバル化した社会の多様な問題についてディスカッションできるようにします。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

国際教養学部英語・国際文化学科の教育目標は、グローバル化が進展する21世紀の世界において、幅広い教養をもち、氾濫する情報に流されることなく主体性をもって行動する「世界の市民」を養成することです。この教育目標と各コースの教育内容をよく理解した上で、国際教養学部で学ぼうとする明確な意欲を持っていることが、入学者受入れの基本的な条件となります。具体的には次のような人が入学することを求めています。

各コースごとに次のような人が入学することを求めています。

1. 英語プロフェッショナルコース：高い英語力と異文化コミュニケーション能力を身につけて、国内だけでなく世界で活躍することを希望する人
2. 日本・東アジアコミュニケーションコース：日本・東アジアの言語と文化の学びを通じて、この地域に対話と交流を生み出す力を身につけ、国内だけでなく世界で活躍することを希望する人
3. グローバル共生コース：世界の多様な言語と文化、またメディアに対する強い関心をもち、異文化理解力を身につけて国内だけでなく世界で活躍することを希望する人

そのために必要な基礎学力と学習態度・習慣を高等学校までの段階でしっかりと身につけていることも必要となります。

法学部 法律学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学士（法学）の学位授与にあたっては、社会人としての基礎的教養や倫理観とともに、法学や関連分野の専門的知識を身につけていることを重視します。しかし、それだけでなく、法学の専門的知識を様々な場面で活用できる法的思考力が身についていることも同様に重視します。具体的には以下の9つです。

1. 建学の精神である「世界の市民」の素養を身につけている。
2. 「世界の市民」として必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
3. 専門性の枠にとらわれない広い視野に立ち、主体的に自らの意見をまとめ、批判する力を身につけている。
4. 学際的かつ全方位的な視野に立って、知的世界を拡大している。
5. 文献の読解力、分析力を磨き、自らの考えを整理して表現する訓練を通して、法学学習のための基本技術を身につけている。
6. 現代社会に要求される基本的な法律知識をもち、法的思考力を身につけている。
7. 応用的な法律分野または関連領域に関する知識および思考方法を身につけている。
8. 自ら決めた専門分野についてより高度の知識を修得し、思考、判断、表現する力を身につけている。
9. 自らの適性を客観的に見極めて勉学の動機付けとし、主体的に進路を選択する力を身につけている。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーで具体的に明記する人材養成目標を達成するために、以下の項目からなるカリキュラムを編成し実施します。カリキュラムは、大きく「共通教育科目」と「学科教育科目」から成り立っています。

「共通教育科目」は、全学部に共通の、基礎教育科目（「建学の精神」および「学びの基礎」）と教養教育科目で構成されます。

1. 建学の精神である「世界の市民」の素養を身につける科目（「建学の精神」）
2. 「世界の市民」としての基礎能力を身につける科目（「学びの基礎」）
3. 幅広い教養を培い、豊かな知性を身につける科目（「教養教育科目」）

「学科教育科目」は、法学部の専門科目で、次の科目で構成されます。

1. 文献の読解力、分析力を磨き、自らの考えを整理して表現する訓練を通して、法学学習のための基本技術を身につける科目（「基礎演習」）
2. 現代社会に要求される基本的な法律知識をもち、法的思考力を身につける科目（「入門科目」および「基幹科目」）
3. 応用的な法律分野または関連領域に関する知識および思考方法を身につける科目（「展開科目」）
4. 自ら決めた専門分野についてより高度の知識を修得し、思考、判断、表現する力を身につける科目（「専門演習」）
5. 自らの適性を客観的に見極めて勉学の動機付けとし、主体的に進路を選択する力を身につける科目（「法職オーリエンテーション」「法職プラッシュアップ講座」「法職インターンシップ」）

これらの科目的履修年次や単位数は「カリキュラム・マップ」で明示しています。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

法学部は、社会人としての基礎的教養や倫理観とともに法律知識および法的思考力をもった人材を養成することを目的とし、次のような学生を求めます。

1. 社会問題に高い関心をもっている学生

2. 言語能力、論理的思考力を活かして自ら社会で活躍する意欲のある学生
3. 広い視野をもち、他者を尊重することのできる学生

人間教育学部 人間教育学科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し専門分野に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 教育課程に定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これから社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。
2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切にして、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育んできたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、からの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。
3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教員・社会人としての資質・能力を確実に修得できるよう、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目として4年間の学修を目標とした教育課程を編成する。さらに、人間教育基礎演習、人間教育演習、教育学専門演習、卒業研究と段階を追った研究を、チューターによって支援していく。

1. 基礎教育科目には、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標として置く。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられるような学びも併せて行う。
2. 教養科目には、教育者として求められる幅広く深い教養を身に付けることによって、確かな理解力と豊かな感受性を養うこと目標として置く。過去および現代の社会についての学び、倫理観や人の心についての学び、科学的な世界観についての学び、および日本の伝統的な文化や精神についての学び等、多様な講座を設ける。
3. 専門基礎科目には、児童生徒理解のために必要な科目や教育に関する基礎理解のための科目等、教育の専門科目を学習するための基礎となる科目群を置いて、専門的な学びの基礎を築くことを目標とする。
4. 専門科目には、教職に関する科目、教科に関する科目、保育士に関する科目、健康・スポーツに関する科目、特別支援教育に関する科目、養護に関する科目、キャリア形成に関する科目等において、教育者としての専門的な力量の育成を目標とする。
5. 将来を見据えたキャリア形成と教育者としての自覚の形成を図るために、インターンシップ、教育実習、保育実習、介護等体験実習等を実習科目として置く。併せて国際的な広い視野を持つよう海外インターンシップの機会も設ける。

03 アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

人間教育学部では、幅広く深い知識や技能を習得し、豊かな教養を身に付け確かな専門性を備え、それを基盤としてグローバルな視点からからの日本の教育を展望して、主体的に担つていこうとする強い意志を持つ教育者を養成することを目標とする。また、多様な人々との高いコミュニケーション力や協働できる力、お互いの違いを受け止める柔軟性等の、社会人として備えるべき資質や能力も育成していく。そのため以下のような学生を求める。。

1. 高等学校で修得した基礎的な学力を身に付けていること。(a,b)
2. 大学での専門的な学修を最後まで為し遂げる意志を持っていること。(b,c)
3. 将來の進路の実現に向けての強い希望と意志を持ち続けられること。(c)

4. 教育者としての教養を幅広くかつ深く身に付けようとする関心が高いこと。(a,c)
5. 主体的に判断し行動できる自己を求めて人間的な成長を常に追求する姿勢を持つること。(b, c)

* a:知識及び技能 b:思考力・判断力・表現力等 c:主体性・多様性・協働性

桃山学院大学大学院

01 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

[博士前期課程(修士課程)]

各研究科・専攻に定める所定の年数以上を在学し、以下の能力を身につけ、各研究科・専攻が定める所定の単位を修得するとともに、学位申請論文または課題報告を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修士の学位を授与します。

1. 広い視野に立ち、高度の専門性を要する職業人または高度で知的な素養のある人材として活動するために必要とされる高度にして専門的な学術の理論および応用を教授研究し、社会に貢献するためにそれらを活用することができる。
2. 多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 修得した専門知識および研究能力を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

[博士後期課程]

各研究科・専攻が定める所定の年数以上を在学し、以下の能力を身につけ、各研究科・専攻が定める所定の単位を修得するとともに、学位申請論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して博士の学位を授与します。

1. 専攻分野について自立して研究活動を行う研究者または高度の専門性を要する職業人として活動するために必要とされる高度にして専門的な学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を極めて、国内外の発展に寄与するためにそれらを活用することができる。
2. 多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 修得した高度な専門知識および研究能力とその基礎となる豊かな学識を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

02 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

[博士前期課程(修士課程)]

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、各研究科・専攻が定める人材育成に関する目的を実現するために、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

1. 教育内容・方法
 - (1) 講義、演習等を体系的に組み合わせて、高度な知識・技能を効率的に修得させることを目指す。
 - (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、高度にして専門的な学術の理論および応用を獲得できる体制を整える。
 - (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。
2. 学習成果の評価
 - (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
 - (2) 学位論文または課題報告の審査および最終試験によって把握する。

[博士後期課程]

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

1. 教育内容・方法
 - (1) 講義、演習等を体系的に組み合わせて、高度にして専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
 - (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、高度にして専門的な学術の理論および

応用を教授研究し、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。

- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

03 アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

[博士前期課程(修士課程)]

学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる能力を備えた入学者を求めています。

1. 学士課程における学習を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけている。
学士課程における学習を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
2. 学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養に基づいて、専門分野で主体的に研究する強い意欲を持っている。

[博士後期課程]

学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる能力を備えた入学者を求めています。

1. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけている。
2. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 博士前期課程で修得した基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能に基づいて、さらに高度で独創的な研究を主体的に推し進める強い意欲を持っている。

経済学研究科

01 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

[博士前期課程(修士課程)]

博士前期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文または課題報告を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、修士の学位を授与します。

1. 広い視野に立ちつつ、高度化、複雑化する経済の諸問題に対応しうる専門知識と実践知および社会に貢献する研究能力をもつ。
2. 多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 修得した専門知識および研究能力を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

[博士後期課程]

博士後期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、博士の学位を授与します。

1. 経済学分野について自立して研究活動を行う研究者または高度の専門性を要する職業人として活動するために必要とされる高度にして専門的な学術の理論および応用を研究し、その深奥を極めて、国内外の発展に寄与するためにそれらを活用することができる。
2. 多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 修得した高度な専門知識および研究能力とその基礎となる豊かな学識を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

02 カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[博士前期課程(修士課程)]

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、経済学研究科各コースが定める人材育成に関する目的を実現するために、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

1. 教育内容・方法

- (1) 講義、演習等を体系的に組み合わせて、高度化、複雑化する経済の諸問題に対応しうる専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、高度化、複雑化する経済の諸問題に対応しうる洞察力ならびに分析能力の涵養を通じて、専門的な学術の理論および応用を教授研究し、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。
- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

[博士後期課程]

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

1. 教育内容・方法

- (1) 講義、演習等を体系的に組み合わせて、経済学の諸分野を有機的に関連させながら、高度化、複雑化する経済

- の諸問題に対応しうる専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、高度化、複雑化する経済の諸問題に対応しうる洞察力ならびに分析能力の涵養を通じて、専門的な学術の理論および応用を教授研究し、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。
- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2・学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

03 アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる能力を備えた入学者を求めています。

[博士前期課程(修士課程)]

1. 学士課程における学習を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけている。
2. 学士課程における学習を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養に基づいて、専門分野で主体的に研究する強い意欲を持っている。

〈求める学生像〉

アカデミックコース

1. 現代経済の提起する諸問題を解明する意欲を持ち、そのための高度な理論的・実証的能力を身につけた職業人を目指す人
2. 社会生活を通じて得られた問題意識を学問的に昇華し、自己の再教育を進める知的欲求を持つ人
3. 経済学研究の分野で自立した研究者になることを目指し、博士後期課程に進学することを考える人

税理士コース

税理士や税務会計の専門家をめざす人

地域創生コース

実務経験3年以上の社会人を受験資格とし、地域社会の発展に貢献できる人、地域社会の抱える問題を解決しようとする人

〈入学者選抜の方針〉

多様な人材を国内外から広く受け入れるために、一般入学試験、社会人入学試験、留学生入学試験、学内推薦入学試験など様々な入学試験を実施している。また、いずれの入学試験においても面接における研究計画の内容を重視する。

[博士後期課程]

1. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけている。
2. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 博士前期課程で修得した経済学に関する専門的な知識と外国語文献の活用能力の基礎の上に、さらに高度で独創的な研究を主体的に推し進める強い意欲を持っている。

社会学研究科

01 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

[博士前期課程(修士課程)]

博士前期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、3 研究分野(「現代社会」「現代文化」「社会福祉」)から研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、修士の学位を授与します。

1. 急速に変貌し複雑化する現代社会、多様な文化現象、重要性を増す社会福祉などの諸問題に対応しうる専門知識と実践知をもつ。
2. 急速に変貌し複雑化する現代社会、多様な文化現象、重要性を増す社会福祉などの諸問題に対応しうる研究能力をもつ。
3. 修得した専門知識および研究能力を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

[博士後期課程]

博士後期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、博士の学位を授与します。

1. 急速に変貌し複雑化する現代社会、多様な文化現象、重要性を増す社会福祉などの諸問題に対応できる高度な専門知識と実践知をもつ。
2. 急速に変貌し複雑化する現代社会、多様な文化現象、重要性を増す社会福祉などの諸問題に対応できる高度な研究能力をもつ。
3. 修得した高度な専門知識および研究能力とその基礎となる豊かな学識を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

02 カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

[博士前期課程(修士課程)]

1. 教育内容・方法

- (1) 3 研究分野(「現代社会」「現代文化」「社会福祉」)を設け、講義、演習等を体系的に組み合わせて、専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、急速に変貌し複雑化する現代社会、多様な文化現象、重要性を増す社会福祉などの諸問題に対応しうる専門的な学術の理論および応用を教授研究し、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。
- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

[博士後期課程]

1. 教育内容・方法

- (1) 3 研究分野(「現代社会」「現代文化」「社会福祉」)を設け、講義、演習等を体系的に組み合わせて、高度にして専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。

- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、急速に変貌し複雑化する現代社会、多様な文化現象、重要性を増す社会福祉などの諸問題に対応しうる高度にして専門的な学術の理論および応用を教授研究し、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。
- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

03 アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる能力を備えた入学者を求めています。

[博士前期課程(修士課程)]

- 1. 学士課程における学習を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけていく。
- 2. 学士課程における学習を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
- 3. 学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養に基づいて、専門分野で主体的に研究する強い意欲を持っている。

〈求める学生像〉

- (1) 社会学分野の学部・学科を卒業後、現代社会・現代文化についての専門知識を一層深めつつ、自らのテーマをさらに探求し、修士論文として完成させることを希望している人
- (2) 企業や行政の場などで積んだ実践的経験を、現代社会・現代文化についての幅広い科学的視点から、実証的・理論的な研究としてまとめあげていくことを希望している人
- (3) 社会福祉学分野の学部・学科を卒業後、社会福祉についての専門的知識を一層深めつつ、自らのテーマをさらに探求し、修士論文として完成させることを希望している人
- (4) 社会福祉の現場で積んだ実践的経験を、社会福祉学の広範な体系的知識と専門的視点から、実証的・理論的な研究としてまとめあげていくことを希望している人

[博士後期課程]

- 1. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけていく。
- 2. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
- 3. 博士前期課程で修得した人文諸科学の知見をもとに、比較文化的視野からさらに高度で独創的な研究を主体的に推し進める強い意欲を持っている。

〈求める学生像〉

- (1) 社会学分野の修士課程を修了後、現代社会・現代文化についての広範な知識をふまえつつ専門的研究を一層深め、自らのテーマを博士論文として完成させることを希望している人
- (2) 社会学分野の修士課程を修了後、企業や行政の場などで積んだ実践的経験を、現代社会・現代文化についての専門的な社会学的知識と分析視点に基づいて、実証的・理論的な研究としてまとめあげていくことを希望している人

- (3) 社会福祉学分野の修士課程を修了後、社会福祉についての広範な知識をふまえつつ専門的研究を一層深め、自らのテーマを博士論文として完成させることを希望している人
- (4) 社会福祉学分野の修士課程を修了後、社会福祉の現場で積んだ実践的経験を、社会福祉学の専門的知識と分析視点に基づいて、実証的・理論的な研究としてまとめあげていくことを希望している人

〈入学者選抜の方針〉

多様な人材を国内外から広く受け入れるために、9月と2月の2回、それぞれ「一般入試」、「社会人入試」、「留学生入試」、「学内推薦入試」の4区分により実施している。博士後期課程では、博士論文を執筆する過程として社会人、留学生という枠組みを設定することは不適切と判断しているため、「一般入試」のみ実施している。

経営学研究科

01 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

[博士前期課程(修士課程)]

博士前期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文または課題報告を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、修士の学位を授与します。

1. 国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会に関する専門知識、実践知をもつ。
2. 国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会に関する研究能力をもつ。
3. 修得した専門知識および研究能力を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

[博士後期課程]

博士後期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員をはじめ、論文指導小会議および論文指導会議による研究指導を得て、学位申請論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、博士の学位を授与します。

1. 国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会に関する高度な専門知識、実践知をもつ。
2. 国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会に関する高度な研究能力をもつ。
3. 修得した高度な専門知識および研究能力とその基礎となる豊かな学識を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

02 カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

[博士前期課程(修士課程)]

1. 教育内容・方法

- (1) 5つの分野(「経営学」「経営管理論」「会計学」「経営情報論」「商学」と関連科目および講義、演習等を体系的に組み合わせて、国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会の研究を通じて、専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、経営学の専門的な知識の修得を通じて、経営学の諸問題に対応しうる分析・研究能力を獲得できる体制を整える。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

[博士後期課程]

1. 教育内容・方法

- (1) 5つの分野(「経営学」「経営管理論」「会計学」「経営情報論」「商学」と関連科目および講義、演習等を体系的に組み合わせて、国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会の研究を通じて、高度にして専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習における研究指導計画に基づく指導教員からの指導と共に、論文指導小会議および論文指導会議を設置し、国際化、情報化、イノベーションおよび産業構造転換が進むビジネス社会に関する高度にして専門的な学術の理論および応用を教授研究し、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

03 アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる能力を備えた入学者を求めていきます。

[博士前期課程(修士課程)]

1. 学士課程における学習を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけている。
2. 学士課程における学習を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養に基づいて、専門分野で主体的に研究する強い意欲を持っている。

〈求める学生像〉

- (1) 日本や中国をはじめアジア、オセアニア、そして南北アメリカなどの環太平洋圏のビジネスにおいて指導者・高度専門職業人を目指す人
- (2) 起業やイノベーションにより南大阪地域の活性化に貢献したい人
- (3) 公認会計士や税理士など有資格職業人を目指す人
- (4) 経営学、経営管理論、会計学、経営情報論、商学の各分野で研究者を目指す人

[博士後期課程]

1. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけている。
2. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 博士前期課程で修得した経営学に関する専門的な知識と論理能力、外国文献の活用能力の基礎の上に、さらに高度で独創的な研究を主体的に推し進める強い意欲を持っている。

文学研究科

01 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

[博士前期課程(修士課程)]

博士前期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文または課題報告を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、修士の学位を授与します。

1. 日本を含む世界諸地域の言語・文化に関する専門知識と実践知をもつ。
2. 日本を含む世界諸地域の言語・文化に関する理論的・実践的な研究能力をもつ。
3. 修得した専門知識および研究能力を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

[博士後期課程]

博士後期課程に所定の年数以上在学し、次の能力を身につけ、研究科が定める履修方法に基づいて課程修了に必要な単位を修得するとともに、演習指導教員による研究指導を得て、学位申請論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した者に対して修了を認定し、博士の学位を授与します。

1. 日本を含む世界諸地域の言語・文化に関する高度な専門知識と実践知をもつ。
2. 日本を含む世界諸地域の言語・文化に関する高度な理論的・実践的な研究能力をもつ。
3. 修得した高度な専門知識および研究能力とその基礎となる豊かな学識を基に、自ら課題を発見し解決に取り組むことができる。

02 カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

学位授与の方針に掲げる能力を身につけることを目的として、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

[博士前期課程(修士課程)]

1. 教育内容・方法

- (1) 講義、演習等を体系的に組み合わせて、日本を含む世界諸地域の言語・文化に関する専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、日本を含む世界諸地域の言語・文化についての理論的・実証的研究および比較研究を通じて専門知識を身につけ、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。
- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2. 学習成果の評価

- (1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

[博士後期課程]

1. 教育内容・方法

- (1) 講義、演習等を体系的に組み合わせて、高度にして専門的な学術の理論および応用を効率的に修得させることを目指す。
- (2) 演習において、研究指導計画に基づき指導教員から入念な指導を受け、日本を含む世界諸地域の言語・文化についての理論的・実証的研究および比較研究を通じて高度な専門知識を身につけ、自立した研究活動ができる力を獲得できる体制を整える。
- (3) 研究遂行に求められる倫理観を育む機会を提供する。

2. 学習成果の評価

(1) 研究指導計画に基づく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。

(2) 学位論文の審査および最終試験によって把握する。

03 アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる能力を備えた入学者を求めています。

[博士前期課程(修士課程)]

1. 学士課程における学習を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけていく。
2. 学士課程における学習を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養に基づいて、専門分野で主体的に研究する強い意欲を持っている。

〈求める学生像〉

①英語圏文化研究コース

英語運用能力を高め、英語圏の言語文化に精通した教養人として、グローバル化時代を切り開く人。

②応用言語学・英語教育研究コース

英語運用能力を高めつつ、応用言語学の研究に携わり、将来的には英語教育で指導的な役割を担う人。

③国際文化・メディア文化研究コース

すべてが流動化する時代にあって学際的な視野を広げ、複合的な文化現象を理解し、現代社会に貢献できる人。

④日本語・日本文化研究コース

日本語学・日本語教育学および日本文化学の研究をもとに、日本語教員あるいは日本文化の発信者として国内外で活躍できる人。

[博士後期課程]

1. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、基礎学力と幅広い教養および専門分野に関する知識・技能を身につけていく。
2. 博士前期課程における教育・研究活動を通じて、多様な場面で円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の考え方を的確に表現し、意見を交わすことができる。
3. 博士前期課程で修得した日本を含む世界諸地域の言語・文化に関する知見をもとに、比較文化的視野から、さらに高度で独創的な研究を主体的に推し進める強い意欲を持っている。